

2、学習指導案作成について

※「技能」の習得や「主体的に学習に取り組む態度」の育成については、一定の学習期間が必要となるので、指導後に一定の学習期間を設けてから評価する（-----→）。「知識」「思考・判断・表現」については、指導から期間を置かず評価する（————→）。

※「知識と技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力をバランスよく育成していくことが重要。

		1	2	3	4 (本時)	5	6	7
		あいさつ・準備運動・本時のあての確認						
10		毎時間のはじめに：ルール (クマ歩き・うさぎ跳び・カエルの足打ち・カエルの逆立ち・腕立て歩き・腕立て歩きからの前転・壁倒立)						
		低学年の学習の振り返り (頭上げ跳び・大きな壁倒立び)	低学年の学習の振り返り (台上げ前転)	低学年の学習の振り返り (前はね跳び)	発表会 (自分ができるようになった技を披露)			
20	学習の流れ	課題①(かかえ込み跳び) ・助走から両足で踏み切って着手。 ・足をかかえ込んで跳び越し。 ・着地。 ※発表：屈身跳び	課題②(踵膝上げ前転) ・助走から両足で強く踏み切る。 ・足を伸ばしたまま踵の位置を高く保って着手。 ・前方に回転して着地。	課題③(頭はね跳び) ・膝を上げ回転。 ・両手で支えながら頭頂部をつばし。 ・尻が頭を超えたら腕と腰を伸ばし、体を反らせながら回転。 ※発表：前方屈倒立回転跳び				
30		【技のポイントを意識した学び合い学習】						
40		①動きが細分化されたイラストを取り入れたワークシートに技のポイントの付箋を貼って共有。 ※3つのポイント(跳び箱のどこに手を着くとかいとか。主要動作。安全に着地することができるかどうか。)	②操作りを工夫して自分の課題に応じた練習の場や時間を選ぶ。	③互いの動きを賛め合い、アドバイスをし合う時間を設定する。				④ICT機器を活用して自分の動きの動画を撮ったり、観たりしながら自分の課題を見付ける。
45		ミニ発表会						
		振り返り(自己の伸びを確認し、次時への課題を設定する。)						

〔副主題〕段階のねらいに応じた教え合い活動を通して

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		出欠確認、準備運動(キャッチボール、Tバッティング)、本時の課題確認									
学 習 の 進 め	10	オリエンテーション・キャッチボールや基本的なバットの操作の仕方	簡単なルール説明 試みのゲーム特別ルールあり バット選択 残塁なし 1つのベースに1人	ソフトボール基本的技能向上(送球・捕球・バット操作) ・ボールを相手に正確に投げることができるようになる ・身体を軸を安定させてバットを振りぬこう ・移動しながらボールを捕れるようになる			チーム練習 課題発見・解決 アドバイスシートやICTを活用しながら練習する 教え合い活動②		チーム練習 課題発見・解決 チームの課題に応じた練習 練習試合4 ・ベースに1人 ・アウトゾーンまで送球できたランナーストップ		まとめのゲーム リーグ戦 ・技能に応じてルール変更あり
	20										
	30										
	40										
	50										

1、単元構造図作成について

2、学習指導案作成について

○ 本時の指導目標について

指導と評価の計画の「指導」に関することと整合性を図る。

(例)

一 小 第3学年 マット運動一

- ・勢いや体・手のつき方に気を付けながら、後転グループの技をできるようにする。(知識及び技能)

一 中 第3学年 球技一

- ・チームの課題を発見し、課題解決に有効な練習方法を選択し、自己の考えを仲間に伝えることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)

一 高 第3学年 球技一

- ・チームの課題の解決に向けた練習方法について話し合う場で、仲間の発言に同意を示したり、配慮しながら発言したりできるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

○ 学習の展開(学習指導過程)

学習内容・活動	指導上の留意点・評価基準(評価方法)	学習目標
導入 10分 児童・生徒が主体となるように記述する。	教師の働きかけや支援、配慮事項等を、学習内容・学習活動に関連させて具体的に記述する。 (例) へでできるようにするために～する活動(場)を設定する。	
展開 30分 めあて	学習内容は、個人、ペア、グループ、一言で記述する。 単元構造図と整合性を図る。 評価の方法についても記述する。 (例) ・情報観察 ・学習カード 等	

教師の支援

「学習内容・活動」のねらいと指導方法(手立て)を明確にする

『～のために、～する。』

～のために(するために)、～を提示する。 など

評価規準は、★で明記する。
 単元構造図の「評価」と関連性を図る。
 評価方法は()内に明記する。